

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#39

Ferretti Shipyard 訪問

アドリア海に面したリミニ (Rimini) から少し内陸に入ったフォルリ (Forlì) に Ferretti Group の本社造船所がある。フォルリは古代ローマ時代、リミニからピアツェンツァまで続く当時重要な街道だったアエミリア街道沿に位置している。この街道はポローニャ、モデナ、パルマ等の美食やイタリアきっての産物で名を馳せている街々を通り、今日ではミラノまで続いている。

陽光穏やかな初夏、車で Ferretti 本社造船所を訪れた。ガラスのカーテンウォールに特徴的な Ferretti のロゴマークが美しい建屋が

直ぐに目に入った。連絡していた統括マネージャーと握手を交わし近代的でモダンなオフィスへ。そこで彼らの歴史と生産モデルの説明を聞く。その歴史を少し紐解いてみると……。

1968年創業の Ferretti は約半世紀の間、現在の Ferretti Group を形成するまでには壮大な歴史を乗り越えて来た。2人の Ferretti 兄弟によってモーターセーラーの製造から始め、1980年にはラグジュアリーな FRP 製クルーザーの生産を始める。80年代から当時ヨーロッパ最大の国際ボートショーだったジェノバに毎年の様に足繁く通っていた頃、Ferretti を

度々目にしていた。なかなかのアイデアが詰まった船だなあ、と印象に残った。価格的にも手頃だった事も奏を効し、たちまちビルダーの仲間入りを果たしていくのを目の当たりにしたのをよく覚えている。

1990年代には機関投資家の参画を得た後、2000年にイタリアで株式上場してからは豊富な資金を使って有名ブランドのシップヤードを次々と買収して、世界有数のグループへと成長した。しかし2008年のリーマンショック後はコアビジネスを結束させる為、関連の会社の売却を開始したが、2012年には中国でのヘビー



本社事務所棟はカーテンウォールの外壁が初夏の陽光を浴びて輝いていた。イタリアンモダンなレセプションで統括マネージャーの出迎えをうける。Ferretti の造船棟では、67'のエンジン Man V6 1000HP と、72'の Man V12 1550HP がセッティングされていた。92'の心臓部を尋ねると、MTU 12V 2000HP との事。当然2基掛けである。



樹々に囲まれたオフィス棟の開放的なプレゼンテーションルームで説明を受けると、数字がスーッと頭に入るのが不思議だ。壁に掛けられたスケッチは創業当時の小型ランナバウトとの事。itama のロゴの入った建屋クレーンの左が Itama、右が Wally の造船所となっていて、共に内装作業が行われていた。作業工程と人員管理が効率化されているので、ほぼフルラインの割に見かける作業員は少数だ。

インダストリーのトップ企業であるウェイチャイ (Weichai) グループに75%の株式の買収を受ける。その後ウェイチャイグループは株式を86.8%まで買い増し、Ferretti 家主導の経営は終りを告げた。ちなみに残り13.2%はフェラーリファミリー (Piero Ferrari) が所有している。

現在 Ferretti Group が所有するシップヤードは、Ferretti、Riva、Pershing、Itama、Mochi、Wally、CRN、Custom Line である。当初僕は、中国企業を買収したと聞いてがっかりした。何故なら世界の有名ブランドや企業を次々と買収する中国企業は、プロフィットのみを追求して、儲けては売却するのではないかという偏見を持っていた。ところがウェイチャイのトップの一人で Ferretti Holdings の中国人 CEO を知ってから、その考えは全く覆った。彼はミラノのオフィスにはほぼ常駐し、イタリア中にあるグループの造船所を精力的に見て回っている。特に Riva には特別な愛着を持っていて、

ミラノからも近いイゼーオ湖の Riva 造船所には足繁く通っている。

ウェイチャイの投資後は、それ迄の雇用を守り、生産ラインや人員管理等を見直して生産効率を飛躍的に向上させるのに成功している。僕自身上海で10年以上事業をやっていて中国人の優秀な人材が手腕を発揮するのを見て来たからその豪腕振りには大いに頷ける。しかも毎年多額の投資を惜しまないから、各シップヤードは次々と新モデルを発表する事が出来た。その結果既に初期投資を回収し満足の行く成長率を達成し、更なる躍進を遂げている。

さて、訪問した Ferretti 造船所では Ferretti 以外に Itama と Wally が生産中だった。Itama は62'と75'が生産中だが、さすがに Itama スタイルの独特なオープン艇は迫力十分である。しかし、販売に関しては苦戦している様だ。Itama の直ぐ横では今年から Ferretti Group の一員となった Wally の Tender シリーズ 52'

と58'を生産中。Wally のモデルはパワーとテンドーシリーズがあり、サイズは50'から165'までと多彩なモデルを展開している。

一方 Ferretti は45'から92'までの8艇種のラインナップである。広大な生産ラインでは67'、72'、92'等が製造中、92'がラッピングされ巨大なクレードルに載った状態で出荷待ちの状況だ。造船所はアドリア海からやや内陸に位置しているから当然陸送されて港に至る。陸路を走行するにはいろいろと制限はある様だが、このサイズでもゆうに陸送出来るインフラがイタリアは整備されている。多くのスーパーヨットが内陸で生産されている事実が驚きだし、目前の92'が悠然と田舎道を運ばれて行く姿を想像するのは実に楽しい。P.B.

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVA と RIB の熱烈な愛好家。